

世の光としての弟子

2011/2/13

シリーズ～弟子道～

地の塩としての弟子

- 「あなたがたは地の塩である。」
- 主の弟子は価値ある存在である
- 主の弟子はこの世に味付けする
 - － 愛・喜び・平和・寛容・親切・善意・誠実・柔和
- 主の弟子はこの世を腐敗から守る
- この世に溶け込まなければ塩の価値はない

世の光としての弟子

<マタイ5:14-16>

「あなたがたは世の光である。

山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

主の弟子は世の光である

- この世は闇に包まれている
 - 「人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。」 <ヨハネ3:19>
- イエス様は真の世の光である
 - 「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」 <ヨハネ8:12>
- イエス様の弟子はその光を反射する
 - 自ら光らせるわけではない

天の父があがめられるために

- 光は隠れていては何の役にも立たない
 - － 人を照らしてこそ主の弟子である！
- 「立派な行い」によって世を照らす
 - － 「立派な行い」とは「美しい行い」のこと、愛
 - － 「光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。」＜エフェソ5:9＞
- 私たちが輝くなら天の父があがめられる
 - － 私たちが特別ではないから効果がある

世の光クリスチャンいろいろ

■ クリスマスキャンドルクリスチャン

- － 年に一度だけ輝く
- － よほど特別なときにだけ主の弟子として働くが、それ以外はほとんど輝いていない

■ 方向指示器クリスチャン

- － 着いたり消えたりしている
- － 信仰が不安定で、周りの人にも信用されない

世の光クリスチャンいろいろ

■ 懐中電灯クリスチャン

- － 災害の時に役に立つが、ついている時間は短い。普段は忘れ去られている
- － 使おうと思ったら電池が切れていることもある。（少し振るとつくこともある）
- － クリスチャンだということは知られているが、当てにされていない。本当に困ったときに相談されることもあるが、的確な対応が出来ず、かえって落胆させてしまう。

世の光クリスチャンいろいろ

■ ろうそくクリスチャン

- － 頑張って光ってはいるが、試練や誘惑に遭うと弱ったり消えてしまったりする。

■ スポットライトクリスチャン

- － 特定の領域には効果を発揮するが、偏りすぎている。

■ 蛍光灯

- － 輝いてはいるがどこことなく冷たい。

世の光クリスチャンいろいろ

■ 白熱電球クリスチャン

- － 熱く輝いているが、熱すぎて近寄りがたく寿命が短い

■ 灯台クリスチャン

- － ぶれることなく一定の光を放ち続けていて、頼りにされる

あなたはどのタイプ？どうなりたいですか？